

# 第2学年 道徳科学習指導案

3 組 計 29 人  
指導者 藤 迫 芳 章

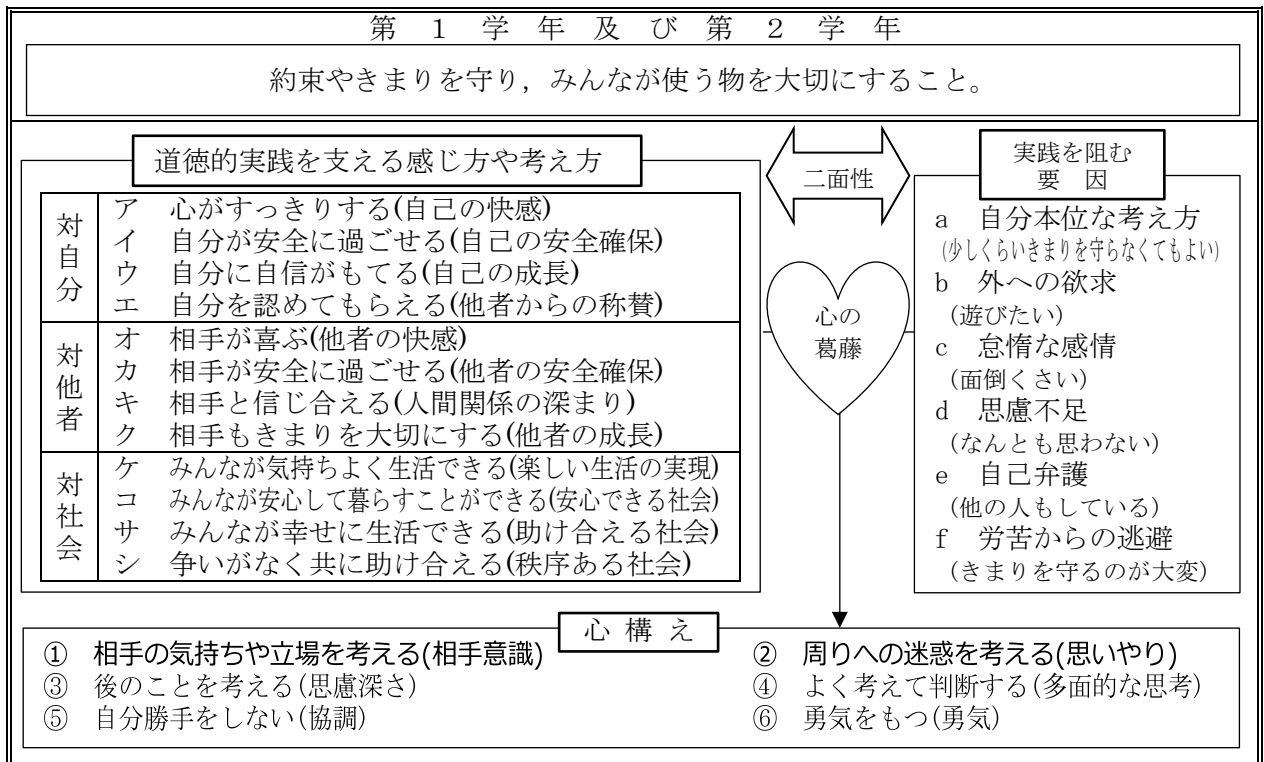
- 主 題 名 きまりのたいせつさ(C 規則の尊重)  
教材名「きまりのない学校」(小学どうとく 生きる力 日本文教出版2年)
- 本主題で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

問題発見力	きまりがなくてもよいと思うことについて考える際、既得の道徳的価値を想起することで、きまりについての「自分の問い」を明らかにする力
判断・形成力	教材の主人公に自我関与して考えたり、きまりについて多面的・多角的に考えたりしながら自己を見つめることで、「自分の問い」への気づきや納得する考えを見だし、自分の考えを形成する力
創造力	他の内容項目と関連付けながら、多面的・多角的に考えたり、きまりがあるよさを感じたりして、「自分の問い」を解決するなど、新たな考えを創り出す力
振り返る力	「自分の問い」を振り返り、きまりがあるよさについて大切にしたい気持ちや考えを見だし、これからの学習や実生活に生かそうとする力

### 3 ねらいとする道徳的価値について

<p>【第1学年及び第2学年】 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。</p> <p>【第3学年及び第4学年】 約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。</p> <p>【第5学年及び第6学年】 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。</p>	<p>(1) 内容項目とその系統 (2) 指導内容についての基本的な立場</p> <p>「規則の尊重」とは、自分と相手とが気持ちよく生活していくために、互いの意思に基づいて取り交わされた約束やきまりを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことである。集団生活のあるところに、必ずきまりや規則というものがある。きまりや規則を守ることによって、人間関係に信頼や連帯感が生まれ、社会の秩序が保たれる。</p> <p>この期の子供たちは、自己中心性が強く、周囲への配慮を欠き、自分勝手な行動をとることも少なくない。また、自分本位な考えや外への欲求、怠惰な感情などの心の弱さから、周りの人に迷惑をかけないなど、他者や社会に視点を広げて物事を考えることができないことも多い。</p> <p>そこで、本主題では、きまりがあることのよさについて考えることで、その意義について理解できるようにする。このことにより、きまりはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを自覚し、きまりを守ろうとする実践意欲や態度を育てることができるようになる。</p>
---	--

### (3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造



(4) 全体計画(別葉)における本主題の位置付け

〈本校の道徳教育の目標〉	よいことと悪いこととの区別を主体的に判断し、生命ある全てのものを大切にしようとする子供を育てる。
〈重点目標：低学年〉	うそやごまかしをしないで明るく楽しくすることの大切さを知り、正直で素直に伸び伸びと生活できる態度を育てる。
〈子供の実態〉	周囲に配慮せず、自分本位に行動してしまい、約束やきまりを守れないときがある。

教科等	主な学習活動	主な教師の手立て
朝の活動 〈学習のテーマ〉	よりよい生活を送るために、集団や社会に関わる ときの自分の課題や大切にしたいことを考えたり、 テーマを掲げたりする。	② よりよい生活を送ることについて、一人一人が現在の 自分の価値観を見つめ、課題や大切に感じていることを 話し合うことで、テーマに関する「自分の問い」を見い だすことができるようにする。
自分の心に正直であり、素直であるために大切なことは、何だろう。		

【道徳科】

「じぶんのいいところ」 (A 個性の伸長) 『いいところ見つけた』	自分や友達のよいところについて考え、よいところ を見付けると自分の喜びに変わること気付き、 自分のよいところについて深く見つめる。	③ 友達に優しく接したり、先生に褒められたりする主人 公に自我関与して考え、自己の生き方を見つめること で、自己理解を深めることができるようにする。
「すなおな心で」 (A 正直、誠実) 『お月さまとコロ』	主人公の気持ちの変化を通して、自分に素直にな ると清々しい気持ちになるということに気付き、素 直に生活することの大切さについて考える。	④ 主人公はどうして謝ろうと思ったか、自我関与して考 え、自己を見つめることで、自分に素直になることのよ さに気付くことができるようにする。
「してはいけないこと」 (A 善悪の判断、自律、自由と責任) 『わりこみ』	割り込みはどんな場合でもしてはいけないとい うことに気付き、よいと思うことを進んで行おうと することの大切さについて考える。	⑤ 割り込みを許そうとする主人公に自我関与して考え、 学び合いを行うことで、多面的・多角的な考えに触れ、 自分の考えを深めることができるようにする。
「きまりのたいせつさ」 (C 規則の尊重) 『きまりのない学校』	目に涙を溜めていた主人公に共感しながらきまり がある意義に気付き、他教科や実生活にどのよう に生かすか考える。	⑥ 目に涙を溜めていた主人公に自我関与して考え、その 理由について学び合いをすることで、きまりがある意義 やその大切さについての理解を深めることができるよ うにする。

学級活動 「言葉遣いについて」	言葉遣いについての自分の考えと友達の考えを 共有することで、よりよい生活を実践していこうと する今後への新たな気持ちをもつことができるよ うにする。	⑦ 言葉遣いについて、自己を見つめたり、友達の考えの よさに気付いたりする。その後、学習のテーマと関連付 けて振り返り、教師が価値付けることで、今後へつな がる実践意欲や態度を高めることができるようにする。
--------------------	---	--

【他教科との関連】

【家庭や地域社会との関連】

1 1月 国語科「おもちゃの作り方」(相手のことを考えて、友達に説明する)	テーマに関わる学習内容や学習活動の様子を学級通信で知らせる。また、子供が学んだことを記述したワークシート「心のプリント」を各家庭で価値付けてもらう。
1 1月 生活科「山下まつり」(1年生の気持ちを考えて、仲よく遊ぶ)	
1 2月 学校行事「城山登山競走大会」(自分の弱い心に負けずに走りきる)	

4 子供の実態について

(調査人数 27人 令和3年8月2日)

(1) 本主題に関する経験場面①(選択式、複数回答可)

約束やきまりを守ることができた経験	人数
・ トイレのスリッパを並べた	27
・ 廊下を歩いた	26
・ チャイムを守った	26
・ 交通ルールを守った	26
・ 進んであいさつをした	25
・ 悪口を言わなかった	24
・ 友達や家族との約束を守った	23
・ 無言で掃除をした	20

(2) 本主題に関する経験の気持ち

約束やきまりを守ることができたときの気持ち	人数
・ 嬉しい	14
・ 守れてよかった	4
・ 心がすっきりした	4
・ よい気持ち	2
・ 続けてよかった	2
・ 頑張ってたかった	1

(3) 本主題に関する経験場面②(選択式、複数回答可)

約束やきまりを守ることができなかった経験	人数
・ 廊下を走った	23
・ トイレのスリッパを並べなかった	22
・ 友達や家族との約束を守らなかった	16
・ 悪口を言った	15
・ 歩道を広がって歩いた	6
・ チャイムを守れなかった	5
・ 兄弟のおやつを横取りした	1

(4) 本主題に関する経験の理由(選択式、複数回答可)

約束やきまりを守ることができなかった理由	人数
・ 面倒くさいから	14
・ 周りの迷惑になっていないと思ったから	8
・ 少しくらいならよいかなどと思ったから	8
・ みんなもしているから	4
・ 友達もしていたから	3
・ 誰も見ていないから	3
・ 急いでいたから	2
・ 自分さえよければと思ったから	1
・ 友達と話をしていたら忘れていたから	1

(5) 道徳的価値の意義

約束やきまりを守るとどんなよいことがあるか	人数
・ 褒められる	9
・ 自分の心がすっきりする	4
・ みんなが嬉しくなる	4
・ 怪我しない	3
・ 感謝される	3
・ 楽しく過ごせる	2
・ 安全に過ごせる	1
・ 仲よく過ごせる	1

(6) 道徳的価値に対する心構え

約束やきまりを守るためにどんな気持ちが大切か	人数
・ 守り続ける気持ち	12
・ よいことをする気持ち	4
・ みんなが嬉しくなることを考える	3
・ 後のことを考える	3
・ 強い気持ち	2
・ 絶対にしない気持ち	1
・ 弱い気持ちに負けない	1
・ 頑張る気持ち	1

【考察】

(1), (2)から、学校生活や身近な生活場面の中できまりを守った経験がある子供が多く、そのときの気持ちとして、自分自身に快い感情を抱き、喜びを感じていることが分かる。その一方、(3), (4)から、「面倒くさいから」、「周りの迷惑になっていないと思ったから」など、自分本位な考えがあることが分かり、きまりを守る意義やその心構えを十分育てる必要があると考える。(5), (6)から、きまりの意義として、「褒められる」といった他律的に捉えている子供が多いことが分かる。また、「自分の心がすっきりする」など、対自分的な視点が多いことが分かる。一方で、対周囲的な視点が多く、限定的に捉えていることが分かる。また、その心構えとしては、「守り続ける気持ち」、「よいことをする気持ち」などを大切にしていることが分かる。これらの実態から、きまりがある意義について考えることを通して、今後の生活場面でも約束やきまりを守ろうとする実践意欲や態度を高める工夫をしたい。

## 5 教材について

### (1) 教材のあらすじ

きまりを守ることができないあきは、学校にいろいろなきまりがあるため、少し不満をもっている。そんなあきは、きまりのない学校に行った夢を見る。初めは、自由に過ごすことができ喜んでいく。しかし、あきは、好き勝手に行動をする友達を見て、やがて目に涙を溜める。しばらくすると、自分を呼ぶ母の声が聞こえ、あきは、今までの状況が夢であることに気付く。あきは、夢でよかったと安心して元気よく飛び起きる。

### (2) 教材の分析・反応予想

場面	分析（価値構造図より）	予想される子供の反応
1 きまりを守れていないあきら 【実践を阻む要因】	a 自分本位な考え方(少しくらいきまりを守らなくてもよい) b 外への欲求(遊びたい) c 怠惰な感情(面倒くさい) ① 相手意識 ② 思いやり ③ 思慮 ④ 多面的な思考 ⑤ 協調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少しくらいなら守らなくてもよいかな。</li> <li>・ 自由に遊びたいな。</li> <li>・ きまりを守るのは面倒くさいな。</li> <li>・ 他の人もしているから自分もよいかな。</li> <li>・ きまりがあると大変だな。</li> </ul>
2 目に涙を溜めていたあきら 【望ましい姿】	ア 心がすっきりする(対自) オ 相手が喜ぶ (対他) ケ みんなが気持ちよく生活できる (対社) ① 相手意識 ② 思いやり ③ 思慮 ④ 多面的な思考 ⑤ 協調 ⑥ 勇気	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ きまりを守ると心がすっきりする。</li> <li>・ 怪我せず、安全に過ごせる。</li> <li>・ 友達が嬉しくなるように行動したい。</li> <li>・ みんなが気持ちよく安心して過ごせる。</li> </ul>

### (3) 教材の活用

本教材は、きまりのない生活を望んでいたあきらが、夢の中での友達の好き勝手な行動を見て目に涙を溜めてしまうという心の変化を捉えることで、きまりの大切さについて考えを深めることのできる話である。あきらが目に涙を溜めた理由について考えることで、約束やきまりの意義を対自的視点で捉えている子供たちの価値観を、対周围的視点に向けることができる教材であるといえる。きまりのない生活を望んでいたあきらときまりのない生活の大変さを味わったあきらの気持ちを比較し、物事を多面的・多角的に考えることで、「きまりがないことがよいことばかりとは限らない」ことや「きまりがあるとみんなが気持ちよく安心して過ごせる」などの道徳的意義に気付く、道徳的実践意欲や態度を高めることができるように本教材を活用する。

## 6 指導に当たって

### (1) 「必要性」を実感する教師の手立て

「気付く」過程では、まず、これまでのテーマ学習で学んだことについての実践状況を道徳コーナーで振り返ることで、これまでの経験を想起できるようにする。次に、きまりが守れるときと守れないときについて考えることで、きまりについての既得の道徳的価値を想起しながら、自己の価値観に気付くことができるようにする。そして、「そもそもきまりは何のためにあるのですか。」と問いかけることで、「きまりは何のためにあるのかな。」「きまりは誰のために守るのかな。」などの「自分の問い」を見だし、学級全体で考えることができるようにする。

### (2) 「自律性」を実感する教師の手立て

「見つめる」過程の前半では、教材を一読後、役割演技を通して、自由に過ごすことができたあきらに自我関与して考える。その際、「きまりがなくなって思いが叶ったあきは、どんなことを考えたでしょう。」と問いかけることで、誰にでもきまりを守らず自由に過ごしたいという心の弱さがあるということに気付くことができるようにする。また、ペアや全体で友達の考えを聞くことで、きまりについての多様な感じ方や考え方にも気付くことができるようにする。

「深める」過程では、本時で学んだことについて自己を見つめることで、「自分の問い」を振り返ることができるようにする。そして、本時で考えたことや新たに気付いたこと、これから実践したいことなどを記述することで、今後のよりよい生き方に気付く、学びを自覚することができるようにする。さらに、タブレットPCを用いて、きまりがある意義についての考えを全体で共有することで、きまりについて多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解を深めることができるようにする。

### (3) 「関係性」を実感する教師の手立て

「見つめる」過程の後半では、自由に過ごしているのに目に涙が溜まってきたあきらの気持ちを役割演技を通して考えることで、きまりがあることよきやきまりを守ることの大切さなどに気付くことができるようにする。その後、全体で、「きまりがあると、何かよいことがありますか。」と問いかけることで、きまりがあるよきやきまりを守る大切さなど、多面的・多角的な考えに触れ、「きまりを守るとみんなが安全で安心して過ごせる」などの道徳的価値の意義の理解を深めることができるようにする。

### (4) 「有用性」を実感する教師の手立て

「高める」過程では、きまりが守れている生活場面を大型モニターに提示し、「みなさんはこの写真を見て、どんなことを感じますか。」と問いかけ、本時の学びと具体的な生活場面とを結び付けることができるようにする。その後、子供の発言を価値付けることで、実生活に生かそうとする道徳的実践意欲や態度を高めることができるようにする。

7 本 時

(1) ねらい きまりがある意義について考えることを通して、きまりを守ろうとする道徳的実践意欲や態度を高める。

(2) 展 開  教師の言葉掛け  子供の反応  重点評価項目

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	主な教師の手立て			
気 付 く (8)	1 前時までの学習を振り返り、きまりについて考えていきたい問題に気付く。【「自分の問い」づくりタイム】 きまりは大切ですか。少しくらいきまりを守らなくてもよいかと思ったことはありませんか。 ・ 急いでいたら廊下を走ってもよいかなんて思うときがあるな。 ・ 大切だけれど、苦手な野菜が入っている給食があるときは残したいな。 以前自分の心に正直に過ごすことについて学習しましたね。自分の心に正直に過ごすことは大事だから、きまりがなくてもよいのではないですか。 ・ きまりがない方が楽しいけれど、きまりは守った方がよいな。 ・ 自分の心に正直でありたいけれど、きまりを守らないと注意されるよ。	㊸ テーマ学習で学んだことや実践状況を振り返ることで、これまでの経験を想起できるようにする。きまりが守れているときと守れていないときについて考えることで、きまりについての既得の道徳的価値を想起しながら、自己の価値観に気付き、問題意識を高めることができるようにする。そして、一人一人が「自分の問い」を見いだすことで、主体的に活動できるようにする。	「必 要 性」		
	2 きまりに対する「自分の問い」を見いだす。 きまりは何のためにあるのだろうか。	㊹ 教材を一読後、きまりがなくなり自由に過ごせたあきららについての役割演技を行い、そのときのあきららに自我関与して考えることで、誰にでもきまりを守らず、自由に過ごしたいという心の弱さがあることに気付くことができるようにする。		「自 律 性」	
	3 教材「きまりのない学校」を一読し、あきららの気持ちを捉えながら、きまりの意義について話し合う。 【「自分の問い」追究・交流タイム】 (1) 教材を一読し、きまりのない学校で生活できたあきららの気持ちを考える。 【人間理解】 【他者理解】 きまりがなくなって思いが叶ったあきららは、どんなことを考えたでしょう。 ・ 友達と自由に遊べて嬉しいな。 ・ 自由に遊んでも先生に叱られないから楽しいな。 ・ でも、ブロックが壊されて嫌だな。悲しくなるよ。 (2) 目に涙を溜めたあきららの気持ちを考える。 【価値理解】 【他者理解】 目に涙を溜めたあきららは、どんなことに気付いたのでしょう。 【対自分の考え】 【対周囲の考え】 ・ 迷惑だな。 ・ みんなが悲しくなるよ。 ・ 怪我をするから、悲しい。 ・ みんなが迷惑するよ。 ・ 学校に行きたくないな。 ・ 静かにしてほしい。	㊺ 目に涙を溜めたあきららについての役割演技を行い、そのときのあきららに自我関与して考えることで、きまりがある意義などに気付くことができるようにする。その際、目に涙を溜めたあきららが気付いたことをノートに記述し、ペアやグループで学び合うようにする。そうすることで、きまりがある意義などについての多面的・多角的な考えに触れ、自分の考えを深めることができるようにする。			「関 係 性」
	(3) きまりがあるよさについて考える。 【価値理解】 【他者理解】 きまりがあると、何かよいことがありますか。 ・ みんなが落ち着いて生活できるね。 ・ みんなが安全に過ごせるから、気持ちよく生活できるね。	㊻ 「自分の問い」を解決する際、きまりがあるよさについて問いかけることで、視点を周囲へと広げながらこれまでの経験と重ねて自己を見つめ、今後のよりよい生き方に気付くことができるようにする。			
4 新たに気付いたことや「自分の問い」に対する考えなどを記述し、発表する。【「自分の問い」振り返りタイム】 【価値理解】 【他者理解】 きまりは何のためにあるのでしょうか。 ・ みんなが安全に過ごせるから、安心するね。 ・ 学校がよくなって、楽しく過ごすことができるね。	㊼ 「自分の問い」を振り返る際、新たに気付いたことやこれからの生活に生かしたいことなどを記述することで、自己の成長や課題を自覚できるようにする。その後、タブレットPCに入力した一人一人の大切にしたい考えを全体で共有することで、多面的・多角的な考えに触れ、道徳的価値の意義の理解を深めることができるようにする。	「有 用 性」			
5 きまりについて、本時で新たに気付いたことや今後に生かしたいことなどを振り返る。 ・ きまりは、みんなが安全に過ごすためにあるということが分かりました。 ・ みんなが安心して過ごすためにきまりがあるのだと気付きました。周りの人のことを考えていきたいです。	◆ きまりの大切さについて、自分との関わりで考えたり、物事を多面的・多角的に考えたりすることができたか。【発言・反応・ノート・ワークシート】				
6 本時の学習と実生活とをつなげ、実践意欲や態度を高める。 【価値理解】 【他者理解】 きまりが守れている写真を見て、みなさんはどんなことを感じますか。 ・ 嬉しい気持ちになるから、きまりを守って生活したいな。 ・ 心がすっきりする。これからも周りの人のことを考えて生活したいな。	㊽ きまりが守れている生活場面を提示し、価値付けることで、実生活に生かそうとする道徳的実践意欲や態度を高めることができるようにする。				

## 第2学年 道徳科 授業デザインシート（テーマ）

テーマ	自分の心に正直であり、素直でいるために大切なことは、何だろう。
-----	---------------------------------

本テーマで育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

問題発見力	自分の心に正直であり、素直でいることについて考える際、既得の道徳的価値を想起することで、テーマ学習での「自分の問い」を明らかにする力
判断・形成力	教材の主人公に自我関与して考えたり、テーマについて多面的・多角的に考えたりしながら自己を見つめることで、「自分の問い」への気付きや納得する考えを見だし、自分の考えを形成する力
創造力	他の内容項目と関連付けながら多面的・多角的に考えたり、自分に正直であることや素直でいることのよさを感じたりして、「自分の問い」を解決する等、新たな考えを創り出す力
振り返る力	「自分の問い」を振り返り、自分の心に正直に生活すること等について、大切にしたい気持ちや考えを見だし、これからの学習や実生活に生かそうとする力

### 本テーマの授業デザイン

本テーマで育成を目指す資質・能力と特に関わりのある学習活動において、以下のような手立てを行い、その有効性を検証しながら授業をデザインすることにした。

〔第1時〕 主題名 自分のいいところ(A 個性の伸長) 教材名 「いいところみつけた」  
ねらい：自分や友達のよいところを考える中で、よいところが見つかるとうれしい気持ちになることに気づき、自分のよいところを見つけていこうとする態度を高める。

判断・形成力	<b>【目指す子供の姿】</b> 自分のよいところについて自分との関わりで捉え、自分のよさを見付けると自分の喜びに変わることに気付き、友達に優しくする、掃除を頑張るなど、自己を見つめ、自分のよさを見付けている。	<b>【「自律性」を実感する教師の手立て】</b> 友達に優しく接したり、先生に褒められたりする主人公に自我関与して考え、これまでの自己の生き方を見つめることで、自己理解を深めることができるようにする。	<b>【子供の反応】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困っている人に優しくできているので、これを続けたい。</li> <li>・ 主人公のように友達に優しくできているから、これからも優しくしていきたい。</li> </ul>
	<b>【自律性を実感する教師の手立ての改善点】</b>		

〔第2時〕 主題名 すなおな心で(A 正直、誠実) 教材名 「お月さまとコロ」  
ねらい：主人公の気持ちの変化を捉えることで、自分に素直に過ごすことがはげばとした気持ちになることに気付き、素直に生活しようとする心情を育てる。

判断・形成力	<b>【目指す子供の姿】</b> 主人公に自我関与して考え、自分に素直になることのよさについて自分との関わりで捉え、素直さは相手を嬉しくさせる等、自己を見つめ、自分の考えを深めている。	<b>【「自律性」を実感する教師の手立て】</b> 主人公はどうして謝ろうと思ったか、主人公に自我関与して考えることで、自己を見つめながら自分に素直になることのよさに気付くことができるようにする。	<b>【子供の反応】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 素直に謝らないと友達と仲よくなれない。</li> <li>・ 素直でいると、友達や家族が嬉しい気持ちになる。</li> </ul>
	<b>【自律性を実感する教師の手立ての改善】</b>		

〔第3時〕 主題名 してはいけないこと(C 規則の尊重) 教材名 「わりこみ」  
ねらい：割り込みはどんな場合でもいけないことであることに気付き、誰もが気持ちよく生活できるように、よいと思うことを行おうとする態度を高める。

創造力	<b>【目指す子供の姿】</b> 主人公の葛藤する気持ちを自分との関わりで捉え、周囲の人の気持ちを考える、勇気をもつなどの多様な感じ方や考え方に触れることで、新たな考えを創り出し、「自分の問い」を解決しようとしている。	<b>【「関係性」を実感する教師の手立て】</b> 割り込みを許そうとする主人公に自我関与して考え、主人公の心の迷いについて学び合うことで、多面的・多角的な考えに触れ、自分の考えを深めることができるようにする。	<b>【子供の反応】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルールは守る。</li> <li>・ 自分のことだけではなくみんなのことを考える。</li> <li>・ 自分の弱い心に負けない。</li> </ul>
	<b>【関係性を実感する教師の手立ての改善点】</b>		

〔第4時〕 主題名 きまりのたいせつさ(C 規則の尊重) 教材名 「きまりのない学校」  
ねらい：きまりがある意義について考えることを通して、きまりを守ろうとする道徳的実践意欲や態度を高める。(本時)

創造力	<b>【目指す子供の姿】</b> きまりがあるよさについて自分との関わりで捉え、「友達が安全に生活できる」や「みんなが安心して過ごせる」などの道徳的価値の意義やその大切さに気付き、「自分の問い」を解決しようとしている。	<b>【「関係性」を実感する教師の手立て】</b> 目に涙を溜めていた主人公に自我関与して考え、その理由について学び合いをすることで、きまりがある意義やその大切さについての理解を深めることができるようにする。	<b>【子供の反応】</b>
	<b>【関係性を実感する教師の手立ての改善点】</b>		